

試験研究（中間）評価整理表

試験研究機関名 水産試験場

所 管 課（室） 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	豊かで魅力ある水産業の振興	水産資源の持続的利用技術の開発	アサリ増殖技術の開発	食害、底質環境等近年におけるアサリの減耗要因を明らかにし、稚貝発生促進等の増殖手法である「寄土」の効果を検証することにより、松川浦内の様々な漁場環境に応じた増殖手法を提示する。	1 アサリ減耗要因の把握 食害生物の生態や底質環境とアサリの密度及び成長との関係を明らかにする。 2 寄土効果の検証 寄土漁場における毎年の稚貝発生状況、底質を把握し、寄土効果の持続性を検証する。 3 移植効果の検証（新規） 未利用漁場から一般漁場へのアサリ移植による増殖効果を検証する。	18	22	C	アサリの増殖手法を開発するためには、未利用漁場からの移植など新たな技術開発が必要である。	将来は、サキグロタマツメタによる食害以外の要因を明らかにしないと、アサリの良い増殖技術開発は難しいので検討してほしい。
2	豊かで魅力ある水産業の振興	水産資源の持続的利用技術の開発	松川浦における幼稚魚生息状況調査	松川浦において幼稚魚の出現状況を把握し、出現数とその後の外海における漁獲加入量との関係を検討する。関係が明らかとなった魚種については、稚魚の出現状況から、資源の適切な利用方法を検討し漁業者へ提示し、自主的管理を促進する。	松川浦における幼稚魚の魚種別出現数、サイズ等を把握する。また、市場に水揚げされた魚の全長組成等を調査し、漁獲加入時期、年齢別漁獲尾数を把握し、幼稚魚調査結果と併せて資源水準を推測する。	18	22	B	資源動向の予測とともに、漁業者へ提示する資源利用方法の検討を行うためには継続して実施するべきである。	食資源の持続的な確保のためには、幼稚魚の生態を把握する必要があるため、継続してほしい。